

Investigation of clinical factors related to diabetic vascular endothelial function using reactive hyperemia peripheral arterial tonometry

メタデータ	言語: en 出版者: 公開日: 2019-12-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 菊地, 俊介 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032390

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 3017 号	氏 名	菊地 俊介
審 査 委 員 会	主 査 教 授	市原 淳弘	
論文審査の要旨 (400 字以内)			
<p>非侵襲的で簡便な血管内皮機能評価法である末梢動脈反応性充血指数 (RHI) と臨床指標との関連を、糖尿病型別に解析した研究である。多変量解析では、1 型糖尿病患者 12 名において糖化アルブミンが、2 型糖尿病患者 13 名において HDL コレステロールが、独立した RHI の予測因子であった。1 型において糖化アルブミンが高いほど RHI が高い、つまり血管内皮機能が良かった理由として、糖化アルブミンと低血糖の回数が負の相関を示したことより、低血糖回数が少ないことが血管内皮機能の温存に寄与した可能性を考察している。糖尿病患者の内皮機能評価法としての RHI の有用性を広げた研究であり、限られた結果の中で十分な解析と考察が施されている。今後は、対象患者数を多くして、血圧や腎機能、最小血管障害の有無でサブ解析したり、従来の血管内皮機能評価検査結果と比較検討したりして、RHI の有用性と限界を更に明らかにすることが期待される。</p>			
<p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]</p>			